

【臨床・研究】

膀胱全摘除術，回腸新膀胱造設術後に
左尿管内再発を来した膀胱癌の1例

あり ち なお こ¹⁾ みつ い よう ぞう¹⁾ いの うえ けい た¹⁾
有 地 直 子¹⁾ 三 井 要 造¹⁾ 井 上 圭 太¹⁾
こ ばら ち あき¹⁾ ひら おか たけ お¹⁾ す むら まさ ひろ¹⁾
小 原 千 明¹⁾ 平 岡 毅 郎¹⁾ 洲 村 正 裕¹⁾
やす もと ひろ あき¹⁾ ほん だ さとし¹⁾ しい な ひろ あき¹⁾
安 本 博 晃¹⁾ 本 田 聡¹⁾ 椎 名 浩 昭¹⁾
い がわ みき お¹⁾ はら だ ゆう じ²⁾ まる やま りる け²⁾
井 川 幹 夫¹⁾ 原 田 祐 治²⁾ 丸 山 理 留 敬²⁾

キーワード：膀胱癌，膀胱全摘除術，上部尿路再発

要 旨

症例は79歳，男性。2004年9月に膀胱癌に対して当科で膀胱全摘除術，回腸新膀胱造設術を施行した。術中迅速病理診断にて左尿管断端に CIS (carcinoma in situ) を認め，CIS を取り除くまで合計2回の追加切除を要したが，最終検体にも一部 dysplasia の所見を認めた。病理診断は UC>CIS, G3, pT1, u-rt0, u-lt0, ur0, ew0, ly0, v0, lymph node meta(-) であった。以後外来で経過観察を行っていたが，2009年12月膀胱癌の左尿管内再発と診断し，2010年3月左腎尿管全摘除術，新膀胱部分切除術を施行した。病理診断は，UC, G2>3, pT1, lt-u0, ew0, ly0, v0 であり，尿管の一部に CIS を認めた。膀胱全摘除術後の局所再発に関して文献的考察を加えて報告する。

緒 言

膀胱全摘除術は筋層浸潤を有する膀胱癌治療に対するゴールドスタンダードであるが，high stage 症例では術後の再発が重要な問題となる。膀胱全摘除術後の上部尿路再発 (upper urinary tract recurrence: UUT recurrence) 率は2-10%

であるが¹⁻³⁾，多くが両側発症例または high stage 症例であり⁴⁾，一般に治療に難渋する場合が多い。今回われわれは，膀胱全摘除術・回腸新膀胱造設術後5年目に左尿管内再発を来した1例を経験したため，文献的考察を加え報告する。

症 例

患者：79歳，男性。
家族歴：特記事項無し。
既往歴：1989年 胃潰瘍に対し胃亜全摘除術。

Naoko ARICHI et al.

1) 島根大学医学部泌尿器科 2) 同 器官病理部
連絡先：〒693-8501 出雲市塩冶町89-1